



第524号 令和4年3月1日  
発行所 京都市学校医会  
京都市中京区間之町通竹屋町下ル  
楠町601-1 こどもみらい館2階  
TEL (075) 256-0351  
FAX (075) 241-3568  
発行人 杉本英造

## ウクライナの平和とコロナ感染終息を願って

会長 杉本英造

ロシアの理不尽なウクライナへの侵略により、学校、病院が破壊され、子供たちが犠牲になり、劣悪な環境で出産され乳児を抱いている母親をみていると心痛の極みです。一刻も早くこの状況が解決されることを願うばかりです。キエフは京都市の姉妹都市でもありなおさらです。

コロナ感染症も継続しており、2月は京都市立で約5000名の児童生徒が感染し、学級閉鎖も相次ぎました。3月から学級閉鎖の基準が変更されましたのでお知らせします。

変更前は感染可能期間に登校のある児童生徒が、1名でも確認された場合、当該児童生徒等の最終登校日の翌日から、原則5日間（土日を含む）学級閉鎖。変更後（3月4日から）

- <1>感染可能期間に接触がある児童生徒の感染が2名以上同一日に確認された場合（感染経路が共に家庭内感染が疑われる等の場合は除く）
- <2>児童生徒の感染が1名確認され、その時点で、感染可能期間に登校がある他の児童生徒等に風邪症状で欠席している者が3名以上いる場合。
- <3>児童生徒の感染が1名確認され、感染可能期間に登校がある当該児童生徒で、感染者の最終登校日翌日から5日以内に風邪症状等が生じ、その後感染が確認された場合（感染者の感染経路が共に家庭内感染が疑われる等の場合は除く）

・学級閉鎖を実施する場合、その期間は「感染者のうち、最終登校日が遅い方の感染者の、最終登校日の翌日から起算し、原則5日間（土日を含む）」（従来通り）

・当該学級等に在籍する児童生徒の兄弟姉妹の、疫学調査実施中の本市立学校・幼稚園への登校・園

控えの依頼を行わないように変更する。

なお、疫学調査の結果等により児童生徒がPCR検査を受検する場合は、引き続き、検査を受検する児童生徒の兄弟姉妹には、結果判明まで登校園自粛を依頼する。

詳細は<https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000295363.html> 参照ください。

さて4月から学校健診が始まり、日程をすでに決めておられる学校も多いと思います。令和3年4月号で「学校で陽性者が出た場合、健康診断を2週間実施見合わせ」とお知らせしました。学級閉鎖が相次ぐと学校規模が大きい学校ではなかなか健康診断ができないという状況が出てくるかもしれません。原則は上記運用としつつも、疫学調査が完了し濃厚接触者がいない状況であれば、「学校長と学校医で協議」し、状況を勘案して柔軟に健診を催行していただければと考えています。健診に使用する防護備品は各学校に配備しております。文科省から令和4年度の健康診断について、「当該年度末（令和5年3月末）までに実施」となっています。

本年度 京都市学校保健会表彰があり、学校医会からは中嶋 毅先生、尾崎 信之先生、眼科：原山 憲治先生、耳鼻科：平杉 嘉昭先生が受賞されました。表彰式典開催は今年度も見送り市教委より表彰盾をお届けすることになりました。学校医活動にご尽力いただきありがとうございました。

小児科診療内容向上会（4月2日）にて、当会顧問：有井悦子先生が、「ともに“不登校”診療を～子どもたちは待っている」講演されます。学校医が不登校について関心を持ちチームの一員になればと願っています。

## 近畿医師会連合学校医研究協議会に参加して

西京高校学校医 杉本英造

令和4年1月23日(日)大阪医師会主催でWEB開催されました。京都府医師会からは稲葉純子先生が、「ロービジョンの児童・生徒に学校医ができること—京都のとりのくみ—」を報告されました。普通学校で学ぶロービジョンの児童・生徒が増加しており、授業を受けるための支援ツールがあるので、学校医も京都ロービジョンケアネットワーク発行のリーフレット「スマートサイト さくら」を活用して、支援連携してください。

### 「遅すぎではあるが、それでも～HPVワクチンによるがん予防～」

大阪大学大学院医学系研究科

産科学婦人科学講師 上田豊先生の講演

16才までにHPVワクチンを接種し、感染を予防することで、子宮頸がんの発症抑制の有効性は数多く報告されている。定期接種に位置づけされながら厚労省の積極的勧奨の一時的差し控えが8年以上に渡り継続され、罹患率が増加。2000～2004年生まれの女子の子宮頸がんの超過罹患患者数は約22000人、超過死亡者数は約5500人と推計され、今後の積極的勧奨の再開は重要。ワクチン再普及における課題：母親が課す条件として「娘の同級生の半分あるいは6～8割が先に接種した場合」接種意向が高まるとされ、周りの接種状況のみで判断する傾向にある。接種した人は周りに勧めていき、医療者はワクチンの重要性(癌発生を約60%抑制できる)、安全性と有効性の適切な情報提供を行い、対象者、保護者間での情報の共有・拡散が大事。ワクチンの副反応で、急性反応には、急性ストレス反応(頻脈・動悸・過換気など)と血管迷走神経反射(血圧低下・徐脈・失神など)と、問題となっている遅延性反応に解離性神経症状反応(脱力、麻痺、不自然な動き、歩き、言語障害、心因性の非てんかん発作等)がある。ワ

クチンそのものが原因でなく、修飾因子を有する人(生物学的要因、生活環境、生活体験等、多様な症状が起こりやすい人)において、緊張・不安・恐怖が高まり、接種による痛みの悪循環が起こり、機能的な身体症状が顕在化する可能性がある。ワクチン以外の日常のストレスでも症状は誘発される可能性がある。接種積極的勧奨の再開で、多様な症状を訴える女子が出てくると思われるが適切な診療が必要となる。このような症状発症時には、協力医療機関があり、京都では京都府立医大が指定されている。今後の課題として、接種機会を逃した女子へのキャッチアップ接種促進と、検診の受診勧奨。現在国内で承認されている2価(サーバリックス)、4価(ガーダシル)ワクチンの適切な接種により子宮頸がんの60～70%の原因となるHPV16型・18型の感染は予防できるが、その2つ以外の型のHPVの感染による子宮頸がんの発症は予防できないため、90%予防を期待できる9価(シルガード9)ワクチンの定期接種への導入を期待する。合わせて子宮頸がん検診の受診勧奨の強化が大事。男性への接種も、不特定多数への性感染予防、自身の中咽頭癌・肛門癌発症抑制のため推奨される。

追記)厚生労働省は、積極的な勧奨中止期間に接種機会を逃した1997～2005年生まれの女性に対し3年間は無料で接種できる機会を4月から設けた。2価と4価ワクチンが無料接種の対象。ワクチンは3回打つ必要があり、1回打った後、長期にわたり接種中断していた人は、1回目から打ち直すのではなく2回目と3回目を、2回打った人は3回目を公費で接種できる。8年経過して、接種記録が医療機関に残っているかどうか問題もある。

「ロービジョンの児童・生徒に学校医ができることー京都のとりくみー」

京都府眼科医会 稲葉純子  
 (京都ロービジョンネットワーク・いなば眼科クリニック)

見えない、見えにくい状態を「ロービジョン」、ロービジョン者への支援を「ロービジョンケア」という。小児では、未熟児網膜症、先天白内障、網膜色素変性症、網膜芽細胞腫などのために「見えない」「ぼやける」「まぶしい」「視野が狭い」「夜盲」などが生じ学習や生活に支援が必要となる。ロービジョンの児童・生徒の学びの場は、視覚特別支援学校(盲学校)、普通学校内の視覚障害の特別支援学級(弱視学級)、普通学校内の普通学級で弱視通級指導教室の利用、等があるが、近年は「普通学校で学ぶロービジョンの児童・生徒」が増加している。しかし教育委員会・学校・教員には希少障害である視覚障害への対応経験が乏しく、眼科医・眼科学校医と視覚特別支援学校による支援が必須である。

眼科学校医による支援は①教員への支援、②まだロービジョンケアにつなげていない児童生徒を支援機関につなげること、③学校への啓発・研修会の実施、④主治医の情報が校内で活用されているかの

確認、がある。ロービジョンの児童生徒やその保護者が「ロービジョンケアを知らない」場合も多く、②「支援機関につなげること」は全科の学校医にお願いしたい。具体的には「ロービジョンケア紹介リーフレット(スマートサイト)」を渡すことである。リーフレットにはロービジョン者に役立つ地域の福祉、教育、医療の情報、関係機関の連絡先等が掲載され、全国に都道府県単位で整備されている。

京都府では2017年に京都府眼科医会、京都ライトハウス、京都府視覚障害者協会が中心となり「京都ロービジョンネットワーク」を設立し2018年にリーフレット「さくら」を作成した。「京都ロービジョンネットワーク」には眼科医会、福祉団体、京都府内のすべての教育機関が参加しロービジョンの児童生徒の支援・連携に活用されている。

ロービジョンの児童生徒の学びを保証し豊かな将来につなげるため、全科の学校医のお力添えをお願いしたい。



全科の学校医にお願いしたいことは、「支援機関の情報を渡すこと」です。

ロービジョンの児童生徒やその保護者が「ロービジョンケアを知らない」場合も多くあります。学校関係者も、どのように支援・配慮をしていいか、悩んでいます。

ロービジョンの児童生徒、その保護者、在籍校へ、「専門の相談先・支援機関があるよ」とお知らせください。情報提供には、「スマートサイト」が便利です。

※後述 京都府版スマートサイト「さくら」

## 第 10 回 常任理事会

令和 4 年 3 月 5 日 於 事務局

**出席者** 杉本会長、井本・山内副会長、安野専務理事、大久保・川勝・中嶋・西村・林各常任理事、嶋元眼科学校医会理事、鈴木・平杉耳鼻咽喉科専門医会理事、奥村議長、長村・東道監事

### ・会長挨拶

#### <報告事項>

1. 色覚相談 2/8、2/15 各1名  
2/22 2名、3/1 1名 (1名キャンセル)
2. 腎臓相談 2/8 中止
3. 精神衛生研究会 2/17
4. 京都市学校保健会表彰 中嶋 毅先生、尾崎 信之先生、眼科：原山 憲治先生、耳鼻科：平杉 嘉昭先生ご受賞 (表彰式典開催は今年度も見送り市教委より表彰盾をお届け)
5. 令和 4 年度の学校核対策委員会委員推薦について 大久保 秀夫先生
6. コロナ感染報告
7. 三師会主務 留任について
8. その他

#### <協議事項>

1. 令和 4 年度 京都市学校保健会役員選出について
2. 令和 4 年度 三師会・懇談会日程について
3. 令和 4 年度 学校健診について
4. 小学校の令和 4 年度大会日程について
5. 総括産業医の分担について
6. 京都府知事選挙の推薦状について
7. 京都市学校医会研修会について  
講師：神尾 陽子先生  
WEB 7/9日(土) 15:30～17:00 予定
8. 会誌原稿について 5月末締切
9. 就学時健診の代診医について
10. 近畿学校保健学会評議員について
11. 総会資料について
12. その他

#### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 3/8、3/15、3/22 各2名  
(待機者5名)
2. 精神衛生研究会 3/10
3. 京都市学校医会新任校医研修会 3/24  
14:00～ 於：こどもみらい館4階
4. 京都府医師会 新任学校医研修会 3/30  
14:00～ 於：WEB
5. 第11回常任理事会 4/2 14:00～  
於：事務局
6. 全理事会 4/7 14:00～  
於：こどもみらい館4階
7. 京都市学校医会 令和 4 年度 総会 4/16  
14:00～ 於：こどもみらい館4階
8. その他



### ●●● ご 案 内 ●●●

#### 令和 4 年度 京都市学校医会総会

日時 令和 4 年 4 月 16 日 (土)

14:00～15:30

場所 こどもみらい館4階 第一研修室

(京都市中京区中京区間之町通竹屋町下る  
橘町 601-1 TEL 256-0351)

(京都府医師会指定学校医 1 単位取得)